# NetNewsにおける「なりすまし投稿」の抑制

94H080 田北陽一

## 1　はじめに

今日、一般的に使われているNewsリーダにおいて、ユーザ自身が保持するメイルアドレス以外のメイルアドレスを用いて、投稿元メイルアドレスを偽る事は容易である。特に本学の演習室はgatewayにNAPTを導入しており、投稿の行われた各クライアントマシンのIPアドレスをNewsサーバから特定できない。この為、投稿元メイルアドレスを偽った投稿者を特定する事ができない問題が存在する。

よって本研究では、gatewayにNAPTを導入した環境でNetNewsの「なりすまし投稿」を抑制する事を目的とする。

## 2　研究内容

gateway上ではクライアントマシンのIPアドレスを特定する事が可能である。よって、本研究ではgateway上でNetNewsの「なりすまし投稿」が行われているかどうかを判別し抑制する。本研究におけるプログラムtstoneはgateway上にセットアップする。

「なりすまし投稿」を判別しかつ抑制するために以下の流れがある。まず、ユーザ認証を行う事。次に、投稿時に使用しているメイルアドレスが正規のものであるかどうかをチェックする事である。最初のユーザ認証では、POPのアカウントを用いてPOPサーバで認証を行う。この為、有効な認証情報を保持しないユーザのNewsサーバの使用が制限される。次のメイルアドレスのチェックでは、POPのユーザ名に対応するメイルアドレスとユーザが投稿時に使用しているメイルアドレスが同じかどうかをチェックする。ユーザが投稿時に使用しているメイルアドレスとPOPのユーザ名に対応するメイルアドレスが違う場合、「なりすまし投稿」を行ったものとする。「なりすまし投稿」が行われると、tstoneは投稿の中継を行わずNewsリーダにエラーを返す。このチェックにより、有効な認証情報は保持していても、メイルアドレスを偽った投稿を防ぐ事が可能である。また、gateway上で動作している本プログラムはgateway内に認証時刻、クライアントのIPアドレス、POPのユーザ名に対応したメイルアドレスをログとして残す。これらの情報から、「なりすまし投稿」を行おうとした者を特定する為の足掛かりとする事ができる。

## 3　まとめ

本研究で提案した方法を用いて、NAPT環境下におけるNetNewsの「なりすまし投稿」が抑制される事が可能である。tstoneの有効性としては、POPサーバが利用可能な状態であればgatewayにtstoneをセットアップするだけでよい所である。その他のNewsサーバ、POPサーバ、Newsリーダは実装上、設定上の変更を行う必要がない。tstoneは、Newsリーダに対してはNewsサーバのように振舞い、Newsサーバに対してはNewsリーダのように振舞う。また、POPサーバに対してはPOPのクライアントとして振舞う。これらの導入の容易さがtstoneの有効性を高める事を期待できる。今後は、実際にプログラムの実装と動作検証、一般ユーザが使用している環境での運用テスト等が課題としてあげられる。